

月報

15号

発行所

青丘文庫

発行★韓 哲 曦 編集★金 慶 浩
〒654 神戸市須磨区千歳町4丁目1-3
エバーグリーンビル5F
TEL (078) 734-5989

大学に「在日朝鮮人教育の研究」を

中島智子

某短大で一年間教育の原理を担当した。

通常の講義内容を早目に切り上げる。十二月、一月、二月と在日朝鮮人問題を扱った。

金發訂氏の講演記録「在日朝鮮人差別と学校教育の課題」(広島修道大学同和教育資料)を皆で読みずむ形をとった。一ぱラグラフごと学生に読ませてはコメントをつけていったが、ついつい話したい事柄が出てきて、なかなか予定通り進まない。かといって、あまりにこちらの意図が入り過ぎくなり、口角泥を飛ばしてしまう。難しいものだった。

最初の時向に、学生の予備知識を試す意味で、簡単な設問に答えてもらったり、ほとんど正確な知識や認識をもっているのとがわかった。在日朝鮮人総数には五万人

から二十万人の開きがあり、正解は一人もいなかった。高校までの学校教育の中で、在日朝鮮人について学んだことがあるのは、一名だけであった。

資料を読みおえた後に書いてもらったレポートには、明らかな変化がみられた。一般的に話として語っていた学生が、自分の問題として捉える視点を升せていった。朝鮮人を知らないといっていた者が、子どもの頃の住所の朝鮮人部落の記憶をまざまざと甦らせていた。この授業を通してはじめて人間とは何かを真剣に考えたと記す者もいた。勿論、教師の受けだけを担った血の通わないレポートもあった。

たった三ヶ月足らずのとりくみで、学生の意識を変えられるとは思われないし、そういうつもりはない。ただ、こういう話を一度でも聞いたことがあるかないかでは、今後何らかの事態や情報に接した場合の態度決定の幅が違ってくるのではないだろうか。特に教科科目を選択する学生に、もっとこういう機会が与えられるべきではないだろうか。たとえば京大では、「同和」教育、「障害児」教育、民族教育のうち一つを選択しなければならぬことになっている。小・中・高校の在日朝鮮人教育実践を拓げていくために、

教育の研究」とでも題して（「道徳教育の研究」というのがあるのだから）カリキュラムに盛りこむことができないのだろうかと思うのである。

★ 研究報告の要旨

◆ 在日朝鮮人運動史研究（第七回）例会（三・九）

報告者 渡 祥進氏

テーマ

神美鉱山（兵庫県豊岡市五石）について

兵庫県下には、解放前、一ニ以上の鉱山に二〇〇〇名以上の朝鮮人が強制連行されたと考えられる。

北海道、九州等の炭鉱とのちがいは、そのほとんどが非鉄鉱山（金・銀・銅等）であったこと、中小規模の鉱山が多い点である。このうちの一つである神美鉱山は、豊岡市と出石郡の境にあり、現在は廃坑となっている。

い 沿革

一九三三年に金鉱石が発見され、一九三四年から石原産米株式会社により本格的な採掘が始まった。動力一ヶ馬力、従業員五百名という規模で、一九三五年度の生産量は、金八九两、銀四五七两であった。以後、一九四一年に日本産金振興株式会社

に転売され、一九四三年には設備、建物、就労者すべて京都府大江山ニッケル鉱山に移動され廃坑となった。

(二) 連行された朝鮮人

一九三四～一九四二年（石原産米）三名、小學校の修業生（一九三九年～一九四二年）によると一七名の朝鮮人児童が通っていた。また石原産米は当時、能州鉱山（五八三名）、四日市工場（三〇〇名）等に朝鮮人を多数連行している。統計的な数字は無いがこの時期から連行が始まったと考えられる。

一九四一年～一九四三年（日本産金）中央協和会の資料によれば、一九四一年承認数一五〇名、一九四二年三月雇入総数六七名、現在数五八名となっている。一九四三年～一九四五年（京都府大江山鉱山）総人数三八三名、現在数八一名（一九四五・六）である。

(三) 証言（時期不名）

「朝鮮人は二〇〇～三〇〇人ぐらいいたと思う」（豊中市M氏）、「朝鮮人の長屋は五、六軒はあったと思う」（立石村のH氏）、被虐待者から体験者の語りは聞けなかった。

現在、兵庫朝鮮関係研究会で泉下の鉱山について調査して

いる。

これまで五つほどの鉱山について調査を行なったが、ほとんど統計資料以上の連行者数が明りかになった。また、今年になって神戸市内の個人経営の鉱山にまで朝鮮人が働いていた事実も見えた。一九三〇年代、四〇年代に様系していた鉱山は、その規模が大・中・小・個人経営を問わず朝鮮人が連行されていたはずだ、との前提で再調査する必要があるようだ。

◆ 朝鮮民族運動史研究(第五回)例会(三・五)

報告者

船田雄一氏

テーマ 「日帝下の赤色農民組合運動」

これまで日帝下の赤色農民組合運動について事例研究として、定平、永興、金海、明川の各農民組合について報告してきた。更に事例研究をすすめてその成果の上に総括をするのとが必要であるが、他の農民組合の大づっぱな経緯をふまえて一応の総括を試みておこうと考え今回の報告を行った。

総括のために考えたことは、①赤色農民組合以前の農民運動団体はどのようなものであったか、②赤色労組が創設または従

来の農民組合が赤色農組へ改組されるのはどの時期か、③その時期とは月テーゼ、プロフィンテルンテーゼとの関係はどうかというような事柄であった。また「X X農民組合」という名前そのものが即、非合法団体であるのか否かということも点に当たるところであった。

官憲資料によつて一応経緯の明らかな15の農民組合について改組ないし創立の時期をみると、一九三〇年、四仲、一九三二年、九仲、一九三二年、四仲となる。従つて時期的にはプロフィンテルンテーゼ(30年)の影響の方が大きいと思われる。一九三一年五月の朝鮮会の解消がそれに輪をかけたと言えそうである。また「農民組合」という名称そのものが非合法組織ではなかったようで、後に治安維持法違反の秘密結社とされる農民組合がその名前で合法的な消費組合や夜学を運営している例もある。一般的には赤色農組への改組によつてX X同盟からX X組合に改称されているさうであるが、端川や漢原の場合のようにもともとX X農民組合と名のついていたところもある。

その他、全体的に於て赤色農民組合運動の活動は地域は咸

鐵道で一方、朝鮮農民社の運動が活発な地域は平安道で、端川の例のさうに両者が勢力を争いをするような地域は例外的で別の地域で別の運動をしていたと言えるのではない。また、九三〇年代に入つて左翼の運動は青年、女性というような階層別運動体をやめ、労組のできるところは労組で、農組のできるところは農組で組織的に一本化したと考えられる。

★ 新着図書案内

- ◆ 東洋と朝鮮三三集 長崎通商朝鮮人の権を争ふ会 84 45
- ◆ 朝鮮外史 116号 昭陽 朝鮮外史研究会 85. 11. 85
- ◆ 韓国学報 41号 金聖煥編 仁愛社 85. 9 45
- ◆ 學術論文集 15号 朝鮮漢學會編 東京同会 85. 3. 25頁
- ◆ 大東文化研究 20号 丁範鎮編 仁愛社 成均館大出版部 86. 1. 85
- ◆ 韓国基督教會史(湖南篇) 金平珍他共著 大韓長老會總會 教育部 76. 10. A5. 四三四頁
- ◆ 朝鮮に於ける資本主義の発展(統一評論 後集) コピ―
- ◆ 大陸神社大観 岩下伝四郎編 仁愛社 大陸社 36. 45. 25頁
- ◆ 韓子の 昭陽 林永次著 仁愛社 聖恩出版社 79.

4. A5 三六七頁

- ◆ 韓子研究 昭陽社― 한국학자 연구회 劉奉基著 仁愛社 例年出版 仁愛社 79. 1. B6 一七六頁
- ◆ 神社と朝鮮 小川文雄著 朝鮮佛教社 20. 10 B6
- ◆ 近代神社神道史 神社新報社編輯発行 75. 45
- ◆ 昭陽社史 仁愛社 昭陽社他著 仁愛社 85. 45 55頁
- ◆ 昭陽社史 昭陽社 林鐘國著 仁愛社 平和出版社 85. 45
- ◆ 五山七十年史 五山七十年史編輯委員會編輯發行 五七八

★ 次回案内

(一) 在日朝鮮人史研究(西都部會(第七九回)例會

日時 一九八六年四月一三日(日)午後二時

場所 青丘文庫

テーマ 在日をめぐって

報告者 梁永昊氏

(二) 朝鮮民族運動史研究(第五回)例會

日時 一九八六年四月二九日(土)午後三時

場所 青丘文庫

テーマ 土地調査事業についての一試論

報告者 飯沼二郎氏

(三) 三千里正談(てま)の
と論争中の宋氏(金忠浩)
帰化(の者名)もリスト
おまじまじ